



ユニ総合計画の グリーンレポート

1級建築士
不動産コンサルタント 秋山英樹

122号

発行日2017年10月

「フローリングって……なに？」

住宅の床ならフローリングというのが定着している割にはフローリングのことが知られていない出来事が私の目の前で起きました。

あるとき、床材の話からフローリングの話になり、「最近ではオープンキッチンが流行りですが、水周りでは、木のフローリングではなく、フローリングに似た塩ビタイルもありますよ。トイレや脱衣・洗面室は結露水や水に濡れるので絶対塩ビタイルですよ」といって、私が水周りによく使用している塩ビタイル（最近ではフロアタイルと呼ばれます）を見せたら、一様にびっくりした顔をしました。その驚きを見た私の方が驚きました。

見せた見本がどのようなものかといえば、ムクのフローリングと同様に巾9cm、長さ90cmで、厚さ3mmの塩ビ製のシート状のもので、表面は木の柄がプリントされ、おまけに小さく木目模様の凸凹も付いています。少なくとも床に張られてスリッパで歩いたら分かりません。素足だと、少しひやっとするため、分かるかもしれません。

そのフローリングもどきの塩ビタイルを手にして皆さんがはいた言葉は、「これいいナー」。これなら傷が付かないし、水をこぼしても大丈夫だし我が家のフローリングもこれにすれば良かった。そこに居合わせた6人のコメントです。

そこで、フローリングについて考えてみました。フローリング (flooring) とは、木質系の床素材、およびそれらを用いた床を意味する和製英語です。英語のflooringは単に『床材』という意味であり、CFフロー（クッションフロー）や和室の畳も英語ではflooringです。

最近の分譲マンションは、グレードアップしてきました。それに引きずられ戸建て住宅の要求性能もアップしました。最も著しいのが住宅設備機器関連ですが、内装では床材ではないでしょうか

皆が「これいいナー」といったリアクションは昔の新建材がでたときと同じだと思います。いわゆるプリント合板といわれ、当時はすばらしい建材だと急激に普及しましたが、現在では安価なアパートの台所の壁にメンテナンスが良いということで使用される程度です。

プリント合板もその後、表面に木目までついた化粧シートが開発され、MDF (中密度木質繊維板) と呼ばれる木質系の基材に貼られ、現在ではほとんどの住宅・マンションの窓枠・扉枠などの

造作材として使用されています。木目の入った化粧シートは、プロでも本物と見分けがつきにくく、一般の人は本物の木と誤っているでしょう。

話をフローリングに戻しますと、大きく次の3種類に分類されます。

①単層フローリング

ホンモノの木のままで無垢材と呼ばれます。

②複層（複合）フローリング

数層の下地合板の上に、本物の木をスライスした0.3～2mm程度の厚さの木を張ったもの。

③WPC(Wood Plastic Combination)床材

木材内に樹脂液を注入し、高分子化、硬化させて作る樹脂化粧板を表面材として用いたもの。

分譲マンションではハードコーティングを施した複合フローリングやWPCが一般的です。無垢のフローリングだと床暖房ではねじれや割れが生じ易く、後日のクレームにつながり易く入居者の要望がない限り使用しません。また、最近は表面に木目を印刷した薄いフィルム状のものをMDFに貼った複合三層タイプの構造のワックスレスのフローリングも人気です。

ここまでくると、フローリングって何？なぜフローリングを選ぶの？という疑問が湧きます。

要するに「木の雰囲気が出ていけば、メンテナンスフリーのものがいい」というのが結論でしょうか。そうすると「これいいナー」と皆が言った、価格と施工費の安いフローリング調の塩ビタイルも悪くないのかもしれませんが。

フローリングは、歩き心地がよく疲れず、木が呼吸して調湿作用をもたらす、自然素材の方が気持ちよく、といった効用があり健康によい材料として採用されてきたはず。それなら、呼吸を止めるようなコーティングをせずに木の呼吸活動をさまたげない自然塗料を使うべきです。

100年住宅をイメージすれば化学的に処理した建材ではなくできれば自然素材のものをきちんとメンテナンスしながら使用するというのが本筋だと思います。人工的な物は、汚れると汚くなるからです。汚くなるからきれいにするため「汚れを落とす」「塗り替える」「取り替える」の3つの方法によるしかありません。

一方、自然素材は汚れや古さが味わいのもになります。「きれい」の本質は衛生的ですが、「美しい」は「古びる」ことで味が出るものなのです。